

にして、農業の多面的機能に関する経済学的な考察を行った。中国からは朱が、農業の負の外部経済効果が農業関連産業も含めた循環経済の中で3次元的に把握できるような循環経済モデルの構築を提唱し、胡が、農業の多面的機能と地域開発の指標システムについて、中国の関係データを用いながら示した。

(3) 閉会

10月26日午後6時、以上の各セッションが終了した後、西尾農林水産政策研究所長からシンポジウム参加者全員に対する感謝と、これをきっかけにして、日中韓の研究協力の輪がますます強固なものになることを期待する旨の挨拶があり、全日程を終了した。

各セッションを通じて、グローバル化する経済の下で、日中韓3か国が直面する過疎化、高齢化、所得格差、農業環境等様々な農業・農村問題の現状が多岐にわたって報告されるとともに、この地域の農業の持続的発展のために必要な分析ツール、とるべき政策対応等について真剣かつ活発な議論が行われた。こうしたことを通じて、日中韓の研究者をはじめとする参加者のすべてが、お互いの国の農業・農村問題について認識を深めることができ、今後我々北東アジア地域の3か国が緊密な連携を保ちながら発展していくための一助になるとすれば幸いである。

3 駐村研究員

駐村研究員制度は、当所の研究機構の一環として、当所創立直後の昭和22年度に創設された。以来、諸般の事情の変化に伴い、昭和43年度及び59年度に大きな運営上の改善を図ってきたが、厳しい財政事情の下で17年度限りで廃止された。

駐村研究員は、農業及び農村に関し豊富な知識を有する地方在住者であって、当所研究員から推薦された候補者の中から選定され、任命された。任期は1年（再任は可）で、駐村研究員ごとに指名される当所の連絡担当研究員と緊密に連絡をとりながら委嘱事項について調査研究を進めることとされた。

具体的な委嘱事項は駐村研究員ごとに異なっており、その調査研究活動も「地域農業及び農村に関する情勢報告」等の調査研究報告書の提出や当所研究員の現地調査への参加・協力等それぞれの場合で異なるが、駐村研究員の活動は、農村現地における生の情報の収集・整理を主眼としており、その点で当所の調査研究を補完する重要な役割を担った。

駐村研究員の研究成果は、駐村研究員会議での報告や『農林水産政策研究所レビュー』への投稿として直接に、あるいは研究員の論文、ノートを取りまとめ、特別研究の調査報告書等を通じて迂回的に発表された。

平成18年1月27日には、最終回となる第26回駐村研究員会議を開催した。テーマは「多様な農業と地域活性化に向けた取組について」で、及川久仁江、古内稔悦、西野顕樹、宮崎利明及び宮嶋望の5名の駐村研究員による報告が行われ、活発な意見交換が行われた。

平成 17 年度の駐村研究員は次のとおりである。

氏 名	住 所	委 嘱 事 項	連絡担当研究員
片山 元治	愛媛県東宇和郡	条件不利地域における地域農業の組織化	香月 敏孝
及川久仁江	岩手県胆沢郡胆沢町	持続的農村の実践化に関する調査研究	鈴木源太郎
小川 正	埼玉県本庄市	花き生産と市場流通問題	松久 勉
古内 稔悦	宮城県仙台市	生産量に着目した農業政策手法と地域の対応	吉井 邦恒
古川 浩	兵庫県三原郡三原町	大規模野菜産地の動向	井上荘太郎
片山 寿伸	青森県弘前市	リンゴ輸出とユーレップギャップ	吉田 泰治
斉田 一除	富山県南砺市	集落営農及び米のトレーサビリティ	渡部 岳陽
西野 顕樹	福井県三方郡三浜町	畜産農家と連携した地域資源循環型農業	佐々木宏樹
宮崎 利明	福岡県福岡市	生協産直と産地交流に関する調査研究	千葉 修
宮嶋 望	北海道上川郡新得町	障害者の自立支援と農業の役割	相川 良彦

4 研究員の受入れ・派遣

(1) 依頼研究員

氏 名	所 属	研 究 課 題	受入部・研究室	受入期間
寺本 益英	関西学院大学経済学部	農業を中心とする地域産業に関する時系列データの分析及び関連政策の再評価	評価・食料政策部 フードシステム研究室	17. 8. 1 ～ 17. 8. 31

(2) 特別研究員等

特別研究員（日本学術振興会）

氏 名	研 究 課 題	受入部・研究室	受入期間
小島 康友	加工食品フードシステムの価格伝達構造に関する計量経済学的研究	評価・食料政策部 フードシステム研究室	15. 4. 1 ～ 18. 3. 31
金子いづみ	集落営農の地域類型とその展望	地域振興政策部 経営構造研究室	17. 4. 1 ～ 20. 3. 31

外国人特別研究員（日本学術振興会）

氏 名	研 究 課 題	受入部・研究室	受入期間
柳 京熙 (韓国)	自由貿易下における韓国農産物の対日輸出機構と日本農業に与える影響	地域振興政策部	16.10. 1 ～ 18. 9. 30

留学生インターンシップ（国際開発高等研究機構）

氏 名	研 究 課 題	受入部・研究室	受入期間
Kanyingi Raphael Gitau (ケニア)	ガーナの土地制度	国際政策部 アジアアフリカ研究室	17.10. 3 ～ 18. 2. 28